

学部等	学科等	①大学・大学院の設置理念 ①学科・専攻の設置理念 ③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等/免許校種ごと）	②教員養成に対する理念・構想（大学、大学院） ②教員養成に対する理念・構想（学科、専攻）
		成蹊大学大学院は、成蹊学園建学の精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与すること及び高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。	成蹊大学大学院においては、設置する博士前期課程の4研究科8専攻のすべてで専修免許状が取得できる教職課程を設置している。それぞれの研究科専攻の基礎となる大学学部等の課程では「広い視野を持ち、高度の専門的知識・技能、科学的研究精神を身につけ、理論的考察力においても実践的教育活動においても、生徒・保護者ばかりでなく、日本国民や世界の人々の期待に応じて活躍できる教師を育成する」目的で教職課程を設置している。大学院研究科の課程においては、これに加えて、学部と大学院の継続性を考慮した教育の実践と教育研究過程においての様々な経験を通し、専門分野の深い知識と、隣接分野、学際的な分野の学修により得ることを目標としている。これにより、現代の知識基盤社会を支える広い知的素養を兼ね備えることで、教育者としての広い視野と確固たる倫理観をもち、生徒をしっかり指導・支援できる能力を培う教員の育成を目指している。これらの能力・知識・技能・使命感と教職の力量を兼ね備え、教員として父母や生徒に柔軟に対応でき、日本国内のみならず国際社会に通用する人材の養成を構想している。
法学政治学研究科	法律学専攻	<p>■法学政治学研究科の理念、目的 法学政治学研究科は、グローバル化と情報化が進展する現代社会において、幅広い視野、正確な分析力、的確な判断力、高度な社会科学的思考力を備えるとともに、法学と政治学の専門的研究能力を備え、社会や学界に貢献する豊かな研究成果を生み出すとともに、社会問題の解決に貢献できる人材の育成を目的とする。</p> <p><博士前期課程> 法学政治学専攻の分野において、さまざまなかたちで社会に貢献する研究などの活動を行うための基礎的能力と専門的知識を備えた人材の育成を目的とする。</p> <p>■教育目標（人材育成方針） 法学政治学研究科では、成蹊大学及び法学政治学研究科の「理念・目的」を踏まえ、人材育成目標を以下のように定める。</p> <p><研究科共通> 法学政治学専攻の分野において、さまざまなかたちで社会に貢献する研究などの活動を行うための基礎的研究能力と専門的知識を備えた人材を養成する。</p> <p><法律学専攻> (1) 国際的に多様な価値観を理解しつつ法的課題を発見し、法による解決を探究する法的思考力を養成する。 (2) 社会の変化を見据えながら将来にわたって法解釈と法的研究を続ける個人の価値観の確立と表現力、発信力を養成する。</p> <p>■ディプロマ・ポリシー【略】</p>	法学政治学研究科博士前期課程では、それぞれの専攻に応じ、法律学又は政治学の分野において、社会及び学界に貢献する優れた研究活動を行っていくための研究能力の育成及び基礎的な知識の付与を目的としている。これを受け、法律学専攻では、基礎的な知識とそれを活かす法的思考力を修得し、社会および学界に貢献する優れた研究活動を行い、自ら問題を把握し、課題を設定し、進んで思考し、他の研究者や教員と積極的にコミュニケーションをとりながら主体的に研究を進めることができる人材を養成することを目的としている（アドミッションポリシー）。 以上の目的のもと、法律学専攻では、高度な法的思考力と主体的な研究能力を持ち、その高度な法的専門能力を最大限に発揮して、社会全体に大きく貢献しうるような、特に優れた教員の養成を基本理念としている。
	①設置理念 ②教員養成 ③認定を受けようとする課程の設置趣旨	<p>○中学校専修免許状（社会） 法学政治学研究科法律学専攻では、上記の目的（アドミッションポリシー）に基づき、専門的知識と高度な法的思考力、広い教養を有し、それらを発揮して社会全体に貢献しうるような、高度専門職業人としての教員養成を目指す。 学生は、法律学の専門的研究を極めることで法的思考力を身につけ、さらに、研究テーマについてレポートや論文を執筆する過程で自ら思考することで得られる深い学識を持ち、また、外国法研究などの科目を通じて得られる広い視野を得ることで、自身の専門分野という軸を持ちつつ、複眼的な視点で社会を見ることができるようになる。</p> <p>○高等学校専修免許状（公民） 法学政治学研究科法律学専攻では、上記の目的（アドミッションポリシー）に基づき、専門的知識と高度な法的思考力、広い教養を有し、それらを発揮して社会全体に貢献しうるような、高度専門職業人としての教員養成を目指す。 法律学は現代社会における問題を扱う学問である。大学院では、学生が、自ら課題を設定し、レポートや論文を執筆する過程で、法律学についての専門的知識を持ち、法に関する深い思考力をもって、個人間または集団間の利害調整や紛争解決制度に関する理解を深めることを可能としている。学生は研究を進める中で、人々の権利や義務について理解を深め、それらをどのように調整するかを考察する。また、国際法や外国法研究を通じて、より広い視点から現代社会について理解を深め、社会における課題の解決に取り組む力を身につける。これらによって、現代社会と人々の権利・義務についての理解を深めさせるとともに、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う教育を提供できる教員を養成し、社会全体に大きく貢献することが、本研究科において高等学校公民科の専修免許状の課程を設置する趣旨である。</p>	

3. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

＜法学政治学研究科法律学専攻＞（認定課程：中専修免（社会））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	前期では、各自の専門に応じた科目を履修することによる比較法・法制史的観点からの専門研究、「研究指導」による各自の専門領域に関する深い研究および修士論文のテーマを模索するための幅広い観点からの研究を開始し、高度な法的思考力と主体的な研究能力を持ち、その高度な法的専門能力を最大限に発揮して、社会全体に大きく貢献しうるような教員になるべく知識の涵養を進めることを目標とする。
	後期	前期に引き続き、各自の専門に応じた科目を履修するとともに、「研究指導」により各自の専門領域に関する深い研究を継続する。また後期では、次第に専門性を強めた観点からの研究を進め、修士論文のテーマを徐々に絞る。
2年次	前期	1年次に引き続き、各自の専門に応じた科目を履修するとともに、「研究指導」により各自の専門領域に関する深い研究を継続する。また2年次では、修士論文の執筆を強く意識して、各自の研究テーマに応じた専門的かつ深い研究を開始する。
	後期	前期に引き続き、各自の専門に応じた科目を履修するとともに、「研究指導」により各自の専門領域に関する深い研究を継続する。後期では、修士論文の執筆に多くの時間を割き、各自の研究テーマに関する専門的かつ深い研究を継続し、最終的には修士論文の完成によって各自の専門研究を総括することが最大目標となる。 修士論文の執筆作業および2年間の科目の履修を通じて、社会に大きく貢献する教員に求められる、専門分野に関する深い知識、一つのテーマについて自己の見解をまとめる能力、自己の見解を文章によって表現する能力を高め、社会系の専修免許状を持つ教員としての資質を確固たるものにすることを目標とする。

3. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

＜法学政治学研究科法律学専攻＞（認定課程：高専修免（公民））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	前期では、各自の専門に応じた科目を履修することによる比較法・法制史的観点からの専門研究、「研究指導」による各自の専門領域に関する深い研究および修士論文のテーマを模索するための幅広い観点からの研究を開始し、高度な法的思考力と主体的な研究能力を持ち、その高度な法的専門能力を最大限に発揮して、社会全体に大きく貢献しうるような教員になるべく知識の涵養を進めることを目標とする。
	後期	前期に引き続き、各自の専門に応じた科目を履修するとともに、「研究指導」により各自の専門領域に関する深い研究を継続する。また後期では、次第に専門性を強めた観点からの研究を進め、修士論文のテーマを徐々に絞る。
2年次	前期	1年次に引き続き、各自の専門に応じた科目を履修するとともに、「研究指導」により各自の専門領域に関する深い研究を継続する。また2年次では、修士論文の執筆を強く意識して、各自の研究テーマに応じた専門的かつ深い研究を開始する。
	後期	前期に引き続き、各自の専門に応じた科目を履修するとともに、「研究指導」により各自の専門領域に関する深い研究を継続する。後期では、修士論文の執筆に多くの時間を割き、各自の研究テーマに関する専門的かつ深い研究を継続し、最終的には修士論文の完成によって各自の専門研究を総括することが最大目標となる。 修士論文の執筆作業および2年間の科目の履修を通じて、社会に大きく貢献する教員に求められる、専門分野に関する深い知識、一つのテーマについて自己の見解をまとめる能力、自己の見解を文章によって表現する能力を高め、社会系の専修免許状を持つ教員としての資質を確固たるものにすることを目標とする。